

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月8日

【四半期会計期間】 第15期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 日本モーゲージサービス株式会社

【英訳名】 Mortgage Service Japan Limited

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鶴澤 泰功

【本店の所在の場所】 東京都港区西新橋三丁目7番1号

【電話番号】 03-5408-8160

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長兼経営管理部長 羽生 五泰

【最寄りの連絡場所】 東京都港区西新橋三丁目7番1号

【電話番号】 03-5408-8160

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長兼経営管理部長 羽生 五泰

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第2四半期 連結累計期間	第15期 第2四半期 連結累計期間	第14期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
営業収益 (千円)	3,009,908	3,343,964	6,267,943
経常利益 (千円)	558,287	698,104	1,154,017
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	386,457	487,871	802,992
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	388,257	486,731	803,430
純資産額 (千円)	3,547,670	4,234,893	3,962,774
総資産額 (千円)	12,177,317	17,002,681	14,873,137
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	55.40	69.47	114.88
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	29.0	24.8	26.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	11,466,426	1,298,979	9,545,290
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	55,751	51,769	128,635
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	11,261,305	1,385,708	9,001,156
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	4,543,596	4,844,686	4,809,726

回次	第14期 第2四半期 連結会計期間	第15期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	28.07	41.38

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、株式給付信託(J-E S O P)を導入しております。1株当たり四半期(当期)純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、本制度の信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社が保有する当社株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、政府の金融・経済対策を背景とした企業業績の緩やかな回復基調を基に、雇用・所得環境の改善傾向が続きました。しかしながら、米中貿易摩擦の長期化や金融資本市場の変動などによる影響により、先行きは不透明な状況が続きました。

また、当社グループの主な事業分野であります住宅関連業界におきましては、政府による住宅取得支援策やマイナス金利の継続を背景に、住宅取得に関連する需要には底堅い動きが見られましたが、金融機関の融資厳格化などの影響で、新設住宅着工戸数は弱含みで推移しました。

このような事業環境のもと、当社グループは『MSJグループ中期経営方針(2019年度～2021年度)』に従い、グループ各社がそれぞれの戦略を基に各種事業を推進いたしました。

a. 財政状態

当第2四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して2,129,543千円増加し、17,002,681千円となりました。主な要因は売掛金が146,300千円減少する一方、営業未収入金1,836,960千円、営業貸付金340,110千円の増加によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して1,857,424千円増加し、12,767,787千円となりました。主な要因は買掛金169,655千円、その他流動負債112,332千円減少する一方、短期借入金1,635,720千円、営業預り金456,070千円の増加によるものです。

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して272,119千円増加し、4,234,893千円となりました。主な要因は利益剰余金238,082千円の増加によるものです。

b. 経営成績

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、営業収益3,343,964千円(前年同期比11.1%増)、営業利益697,957千円(同23.8%増)、経常利益698,104千円(同25.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益487,871千円(同26.2%増)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

住宅金融事業

住宅金融事業におきましては、主力商品であるフラット35の融資実行件数は堅調に推移しました。また、前連結会計年度より新規商品として取扱いを開始したフラット併用プロパー住宅ローン「ベストミックス」の融資実行件数も大幅に増加し、収益性の向上に寄与いたしました。

このような状況のもと、様々な住宅ローンニーズに対応した幅広い住宅金融商品として「MSJプロパーつなぎローン」、変動金利・固定金利選択型「MSJ住宅ローン 十色(トイロ)」、既存住宅流通活性化を促進するための宅建事業者向け融資「MSJ買取再販ローン」、シニア層向けの「MSJ高齢者一括返済型住宅ローン(MSJリバースモーゲージ)の取扱い件数も大きく増加し、住宅金融商品のラインナップの充実に取り組んでまいりました。

また、お客様の利便性向上及び事務の合理化を進めるため、金銭消費貸借契約書の電子契約サービスを開始いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は1,330,931千円(前年同期比27.7%増)、営業利益は403,402千円(同29.8%増)となりました。

住宅瑕疵保険等事業

住宅瑕疵保険等事業のうち、住宅瑕疵担保責任保険事業については、戸建住宅の住宅瑕疵保険販売の拡大と強化を推進するため、一般社団法人住宅技術協議会が提供する地盤保証と同時提案を行う等、他社との差別化を前面に打ち出した積極的な営業展開による新規顧客の獲得、かつ主要取次店との連携強化にも注力した事業活動を継続して行ってまいりました。

その他事業につきましては、住宅瑕疵担保責任保険を基盤とした、地盤保証取次、住宅性能評価等の各種サービスを併せた多項目販売の推進により、収益性の向上に向けた取り組みに努めました。

また、既存住宅においては延長保証保険などを活用したストック循環型ビジネスへのサービス支援の仕組み形成を進めてまいりました。

これらの取り組みにより、当第2四半期連結累計期間における住宅瑕疵保険等事業は堅調に推移し、収益に寄与いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は1,771,383千円(前年同期比5.1%増)、営業利益は253,603千円(同16.4%増)となりました。

住宅アカデミア事業

住宅アカデミア事業におきましては、事業基盤であります住宅事業者向けシステムプラットフォームの提供とこれに連動する住宅メンテナンス保証プログラム並びに住宅リペアサービス保証プログラム等の提供を強化し、事業の継続的成長に努めました。

また、住宅事業者向けサポートサービスであります住宅フルフィルメント業務につきましては、まるはびシェアビジネスの3つの拠点(class vesso西軽井沢・SHARESラグーナ蒲郡・class vesso蓼科)の運営管理業務の安定と品質向上に注力いたしました。

これらの取り組みにより、当第2四半期連結累計期間における住宅アカデミア事業は堅調に推移し、収益に寄与いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における営業収益は241,650千円(前年同期比14.6%減)、営業利益は40,531千円(同17.2%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、4,844,686千円と前連結会計年度末に比べ34,959千円増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により減少した資金は、1,298,979千円(前年同四半期は11,466,426千円の収入)となりました。主な収入要因は税金等調整前四半期純利益698,104千円、減価償却費45,837千円、責任準備金の増加40,860千円、営業預り金の増加456,070千円であり、主な支出要因は、営業未収入金の増加1,836,960千円、営業貸付金の増加340,110千円、仕入債務の減少169,655千円、法人税等の支払258,496千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は、51,769千円(前年同四半期は55,751千円の支出)となりました。主な支出要因は有形固定資産の取得による支出16,360千円、無形固定資産の取得による支出23,878千円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により増加した資金は、1,385,708千円(前年同四半期は11,261,305千円の支出)となりました。主な要因は短期借入金の増加1,635,720千円、配当金の支払249,579千円によるものです。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更、及び新

たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間において、特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定、又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,288,000
計	24,288,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,137,000	7,137,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	7,137,000	7,137,000	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	7,137,000	-	831,233	-	331,233

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社ビルダーズシステム研究所	東京都渋谷区東三丁目6番18号	1,230,000	17.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	487,400	6.82
株式会社日本レジデンシャルファンド	東京都渋谷区東三丁目6番18号	480,000	6.72
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	372,000	5.21
株式会社O S C A R	富山県富山市二口町四丁目7番地の14	240,000	3.36
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	240,000	3.36
BBH LUX/DAIWA SBI LUX FUNDS SICAV-DSBI JAPAN EQUITY SMALL CAP ABSOLUTE VALUE (常任代理人 株式会社三井住友銀行)	80 ROUTE D'ESCH LUXEMBOURG LUXEMBOURG L-1470 (東京都千代田区丸の内一丁目3番2号)	138,700	1.94
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	125,400	1.75
株式会社ノーブルホーム	茨城県水戸市笠原町1196-15	120,000	1.68
ヤマイチ株式会社	富山県富山市野口812	111,000	1.55
計	-	3,544,500	49.66

(注) 1. 当社は自己株式275株を所有しております。なお、当社は、株式給付信託(J-E S O P)を導入しており、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が信託財産として当社株式82,621株を所有しております。

2. 2019年9月24日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、三井住友D Sアセットマネジメント株式会社及びその共同保有者であるS M B C日興証券株式会社が2019年9月13日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
三井住友D Sアセットマネジメント株式会社	東京都港区愛宕二丁目5番1号	329,600	4.62
S M B C日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	14,800	0.21

3. 2019年9月5日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、大和証券投資信託委託株式会社及びその共同保有である大和証券株式会社が2019年8月30日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
大和証券投資信託委託株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	275,700	3.86
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	14,100	0.20

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,127,900	71,279	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式(単元株式数は100株)であります。
単元未満株式	普通株式 8,900	-	-
発行済株式総数	7,137,000	-	-
総株主の議決権	-	71,279	-

(注) 1. 株式給付信託(J-E S O P)が所有する当社株式82,621株(議決権の数826個)につきましては、「完全議決権株式(その他)」に含めて表示しております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には当社所有の自己株式75株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本モーゲージサービス株式会社	東京都港区西新橋三丁目7番1号	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00

(注) 株式給付信託(J-E S O P)が所有する当社株式82,621株につきましては、上記自己株式等に含まれておりませんが、連結財務諸表においては自己株式として処理しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,972,572	4,926,691
売掛金	561,262	414,962
営業未収入金	6,234,130	8,071,090
営業貸付金	1,960,530	2,300,640
その他	362,888	359,631
貸倒引当金	2,197	1,826
流動資産合計	14,089,186	16,071,189
固定資産		
有形固定資産		
建物	233,786	233,901
減価償却累計額	39,720	45,206
建物(純額)	194,065	188,694
工具、器具及び備品	91,268	103,734
減価償却累計額	76,516	77,161
工具、器具及び備品(純額)	14,752	26,572
その他	3,026	3,026
減価償却累計額	1,815	2,118
その他(純額)	1,210	907
有形固定資産合計	210,028	216,174
無形固定資産		
ソフトウェア	137,817	159,009
その他	51,140	25,625
無形固定資産合計	188,958	184,635
投資その他の資産		
投資有価証券	1,543	10,281
敷金	62,186	62,218
繰延税金資産	102,825	111,391
その他	219,378	347,752
貸倒引当金	968	961
投資その他の資産合計	384,964	530,681
固定資産合計	783,951	931,491
資産合計	14,873,137	17,002,681

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	472,870	303,214
短期借入金	6,021,680	7,657,400
未払金	362,844	348,220
前受金	1,341,314	1,385,232
営業預り金	1,035,080	1,491,150
未払法人税等	211,605	171,510
役員賞与引当金	25,511	-
賞与引当金	-	49,434
株式給付引当金	35,644	18,802
支払備金	62,376	71,016
その他	256,694	144,362
流動負債合計	9,825,622	11,640,344
固定負債		
責任準備金	1,075,193	1,116,053
その他	9,548	11,389
固定負債合計	1,084,741	1,127,443
負債合計	10,910,363	12,767,787
純資産の部		
株主資本		
資本金	831,233	831,233
資本剰余金	328,233	328,233
利益剰余金	2,882,941	3,121,024
自己株式	93,774	58,598
株主資本合計	3,948,633	4,221,892
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	545	433
その他の包括利益累計額合計	545	433
非支配株主持分	13,594	12,567
純資産合計	3,962,774	4,234,893
負債純資産合計	14,873,137	17,002,681

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業収益	3,009,908	3,343,964
営業原価	1,087,667	1,086,161
営業総利益	1,922,241	2,257,803
販売費及び一般管理費	1,358,641	1,559,846
営業利益	563,599	697,957
営業外収益		
受取利息	27	27
受取配当金	30	30
受取手数料	141	96
その他	2	0
営業外収益合計	201	155
営業外費用		
支払利息	13	8
市場変更費用	5,500	-
その他	0	-
営業外費用合計	5,513	8
経常利益	558,287	698,104
税金等調整前四半期純利益	558,287	698,104
法人税、住民税及び事業税	180,584	219,777
法人税等調整額	10,815	8,516
法人税等合計	169,769	211,260
四半期純利益	388,518	486,843
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失()	2,061	1,027
親会社株主に帰属する四半期純利益	386,457	487,871

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	388,518	486,843
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	261	112
その他の包括利益合計	261	112
四半期包括利益	388,257	486,731
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	386,195	487,759
非支配株主に係る四半期包括利益	2,061	1,027

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	558,287	698,104
減価償却費	46,839	45,837
支払備金の増減額(は減少)	8,680	8,640
責任準備金の増減額(は減少)	44,376	40,860
貸倒引当金の増減額(は減少)	145	377
賞与引当金の増減額(は減少)	49,920	49,434
役員賞与引当金の増減額(は減少)	21,178	25,511
株式給付引当金の増減額(は減少)	14,552	16,841
受取利息及び受取配当金	58	58
支払利息	13	8
信託預金の増減額(は増加)	171,806	80,841
売上債権の増減額(は増加)	319,799	146,300
営業未収入金の増減額(は増加)	3,784,170	1,836,960
営業貸付金の増減額(は増加)	6,013,860	340,110
仕入債務の増減額(は減少)	224,529	169,655
未払金の増減額(は減少)	82,236	22,911
前受金の増減額(は減少)	42,789	43,917
営業預り金の増減額(は減少)	1,068,120	456,070
その他	102,478	198,120
小計	11,663,775	1,040,532
利息及び配当金の受取額	58	58
利息の支払額	13	8
法人税等の支払額	197,393	258,496
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,466,426	1,298,979
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	12,635	16,360
無形固定資産の取得による支出	44,357	23,878
投資有価証券の取得による支出	-	8,900
敷金及び保証金の差入による支出	-	2,712
その他	1,241	82
投資活動によるキャッシュ・フロー	55,751	51,769
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	11,203,690	1,635,720
自己株式の取得による支出	192	100
配当金の支払額	57,096	249,579
その他	326	332
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,261,305	1,385,708
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	149,368	34,959
現金及び現金同等物の期首残高	4,394,227	4,809,726
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,543,596	4,844,686

【注記事項】

(追加情報)

(賞与引当金の計上基準)

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

なお、連結会計年度末においては、連結会計年度末までの支給対象期間に対応する賞与は、確定賞与として処理することとなっているため発生いたしません。

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高め、経済的な効果を株主の皆様と共有することにより、株価及び業績向上への従業員の意欲や士気を高めるため、従業員に対して自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託(J-E S O P)」を導入しております。

(1) 取引の概要

本制度は、予め当社が定めた株式給付規程に基づき、一定の要件を満たした当社及び当社グループ会社の従業員に対し当社株式を給付する仕組みです。

当社は、従業員に対し個人の貢献度等に応じてポイントを付与し、一定の条件により受給権の取得をしたときに当該付与ポイントに相当する当社株式を給付します。従業員に対し給付する株式については、予め信託設定した金銭により将来分も含め取得し、信託財産として分別管理するものとします。

(2) 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)により純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度末93,511千円、132,670株、当第2四半期連結会計期間末58,234千円、82,621株です。

(四半期連結貸借対照表関係)

借入金に関し、取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。
これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
当座貸越極度額	20,500,000千円	21,500,000千円
借入実行残高	6,021,680	7,657,400
借入未実行残高	14,478,320	13,842,600

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
給料手当	414,497千円	463,755千円
代理店手数料	379,097	448,832
賞与引当金繰入額	49,920	49,434
株式給付引当金繰入額	21,192	18,744

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
現金及び預金勘定	4,913,624千円	4,926,691千円
信託預金	370,027	82,004
現金及び現金同等物	4,543,596	4,844,686

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月4日 取締役会	普通株式	57,096	8	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

(注) 1. 1株当たり配当額には、東証第二部上場記念配当1円が含まれております。

2. 配当金の総額には株式給付信託(J-E-S-O-P)制度に係る信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金1,425千円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月3日 取締役会	普通株式	249,788	35	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

(注) 1. 1株当たり配当額には、東証第一部上場記念配当15円が含まれております。

2. 配当金の総額には株式給付信託(J-E-S-O-P)制度に係る信託財産として、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が所有する当社株式に対する配当金4,643千円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	住宅金融事業	住宅瑕疵保険 等事業	住宅アカデ ミア事業	計		
営業収益						
外部顧客への営業収益	1,042,458	1,684,642	282,808	3,009,908	-	3,009,908
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	-	18,351	2,077	20,428	20,428	-
計	1,042,458	1,702,993	284,885	3,030,337	20,428	3,009,908
セグメント利益	310,705	217,913	34,580	563,199	400	563,599

(注) 1. セグメント利益の調整額400千円は、セグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	住宅金融事業	住宅瑕疵保険 等事業	住宅アカデ ミア事業	計		
営業収益						
外部顧客への営業収益	1,330,931	1,771,383	241,650	3,343,964	-	3,343,964
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	-	5,153	1,846	6,999	6,999	-
計	1,330,931	1,776,536	243,496	3,350,964	6,999	3,343,964
セグメント利益	403,402	253,603	40,531	697,537	420	697,957

(注) 1. セグメント利益の調整額420千円は、セグメント間取引消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	55円40銭	69円47銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	386,457	487,871
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	386,457	487,871
普通株式の期中平均株式数(株)	6,975,450	7,022,448

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 株主資本において自己株式として計上されている株式給付信託(J-E S O P)に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第2四半期連結累計期間161,530株、当第2四半期連結累計期間114,346株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月8日

日本モーゲージサービス株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 末村 あおぎ 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 菊池 寛康 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本モーゲージサービス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本モーゲージサービス株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。